

アグリワークポイント AGRIWORKPOINT

米

米作りは苗半作！

農業経営支援課 山村



播種時のポイント

1. 「宇部粒状培土」を使用しましょう。
2. 播種前にたっぷりかん水しましょう。
3. 適正な播種量を守りましょう。

※1箱当たりの播種量は水稻栽培曆に記載してあります。

4. 機械を使い、できるだけ均一に播種しましょう。
5. 覆土は種子が完全に隠れるまでかけて、その後のかん水は行わないようにしましょう。

生育ステージごとの最適管理を行いましょう！

1. 出芽時の温度管理に注意

出芽温度が32℃を超えると高温障害や徒長苗の原因となります。

- ① 高温になりそうな好天日は、早めの換気をしてハウス・トンネル内の温度上昇を防ぎましょう。

② 温度計は育苗箱の縁には置かず、必ず床土付近の温度を測るようにしましょう。

2. 適切な水管理

- ① 緑化期（1.5葉期）までは1日1回午前中の9時以降にかん水を行います。

② 硬化期（1.5葉期以降）は、午前1回・午後1回（15時前）に行いましょう。

※夕方のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょう。曇天や雨天時は、極力かん水を控えましょう。

育苗中の病気対策

種子及び資材消毒の徹底、播種時または発芽後タチガレエース液剤を散布しましょう。※予防剤ですので、症状が出る前に使用してください。

土壌改良資材を施用しましょう（高温対策）

ケイ酸資材を施用することで、登熟向上や粒太りの改善が期待できます。また、発根促進や気孔の動きが活発になり、蒸散量が増えることで株周辺の温度を下げる効果もあります。

- ・ ケイ酸加里プレミア34（80 kg / 10 a）
- ・ とれ太郎100 kg / 10 a）
- ・ オイスターミネラル（120 kg / 10 a）